

上島町消防だより

秋季全国火災予防運動実施！

11月9日(火) から15日(月) の一週間は秋季全国火災予防運動が実施されます。

この運動は、火災が発生しやすい時季を迎えるにあたり、火災予防思想の一層の普及を図り、もって火災の発生を防止し、高齢者等を中心とする死者の発生を減少させ、財産の損失を防ぐことを目的として、毎年実施しているものです。

これからの季節、家庭や職場でストーブなどの火を使用する機会が増え、建物火災が発生しやすくなります。

更に、空気が乾燥し風が強まると、たき火等による林野火災が発生しやすくなります。

みなさん一人一人が火の取扱いに注意し、より一層の火災予防に努めるようご協力お願いします。

また、住宅火災による死者の低減を図るため、消防法が改正され、すべての住宅に住宅用火災警報器の設置が義務付けられました。

上島町では、新築建物は平成18年6月から義務化となり、既存住宅は平成23年6月1日までに設置しなければなりません。住宅火災から、大切な家族や財産を守るため、住宅用火災警報器を早期に設置しましょう。住宅用火災警報器に関するご質問は『上島町消防本部』までお気軽にご相談ください。



「消したかな」

あなたを守る

合言葉

平成22年度全国統一防火標語

救命率の向上を目指して

上島町消防本部救急研修会開催

10月2日(土) 消防庁舎2階大ホールにおいて、尾道市市民病院麻酔科医師の突沖満則先生を招き、「外傷傷病者の観察と応急処置」と題して、救急隊と搬送医療機関との円滑な連携についてご講演を賜りました。

また、上島町消防本部の救急活動の現状と取り組みについても説明し、管内の医師を交えた意見交換会も行われました。

消防本部では、職員の病院前救護に必要な医学的知識や技術の維持向上を図るため、医療機関での実習及び外来講師を招いての救急研修会を毎年実施しています。

今回の研修会を機に、救急隊員と病院関係者との相互理解を深め、「顔の見える関係」を作り、医療機関とのよりスムーズな連携を図っていきます。また、研修会や実習にも積極的に取り組み、救急隊員の資質を向上させ、更なる救命率の向上を目指していきます。



平成22年出動件数

年別	火災	救急
平成22年(9月)	0	46
平成21年(9月)	1	40
昨年度	-1	+6
22年累計	2	352

平成22年9月30日現在

火災・救急・救助は
119番

家族や財産を守るために、住宅用火災警報器を設置しましょう！

上島町消防本部 77-4118(代)

しまなみ農業だより

今年多発した露地せとかの 黒点病初期感染被害の 原因と対策



今年は特に露地せとかで、果頂部周辺にそうか病のそばかす症状やカイガラムシにも思える小さなかさぶた状の茶点傷害が多発し、整品率を著しく悪化させている園が多数見受けられます。これは黒点病菌の初期感染による病斑です。

発芽・開花期の黒点病防除体系

特に黒点病に弱いせとかでは、発芽期にストロビードライフロアブルの2,000倍、更に開花期（満開～落弁期）にジマンダイセンの成分を含むマネージM水和剤の600倍を散布することが推奨されています。

例年に比べ遅かった春

ここ10年は概ね春先が暖かく、発芽・開花とも早まる傾向にありましたが、今年は3月下旬～5月が冷え込み、カンキツ類の開花も10日以上遅れ15年前の水準でした。また開花期以降も気温が低く、降雨も多かったため遅れてだらだらと咲きました。毎回の防除計画を昨年の日誌を見ながら決められる方が多いと思いますが、今年も昨年の実績に合わせて

5月の中旬までに散布を済ませた方の園で特に被害が激しいようです。

感染の時期と原因

ストロビーもマネージMも適期に散布すると非常に効果の高い薬剤ですが、効果を発揮するには対象物に薬剤が充分付着している必要があります。開花初期にマネージMを散布しても、散布後に咲いた花の子房には薬剤が付着していません。柑橘類は開花初期に直花が咲き、せとか等中晩柑類で果実として残す果梗枝の長い有葉花は遅れて咲きます。今年散布タイミングの早かった園では、残すべき有葉花が散布後遅れてだらだら咲き、薬剤が付着しない無防備な姿をさらしてしまつて感染を助長したと考えられます。これは症状が果頂部に多いことでも裏付けられます。生育初期の果実は風船を膨らませるように均等に肥大（膨張）するのではなく、果梗部付近で新しい組織が形成され果頂部に向かって押し出されるように形成されます。つまり黒点病菌の感染は果梗部付近の組織が形成されるより前に起こったということです。

ストロビーについても同様で、発芽初期に散布するより芽が2～3cm程度に伸長してから散布するのが良いようです。これから展葉しようとする幼葉に薬剤を付着させるためです。

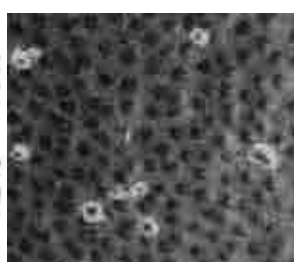
春季の気象と散布の考え方

開花期の防除は対象病害虫が多く薬剤も多くなるので、厳密に言えば開花初期～満開期と満開～落弁期の2回に分けて（品種により満開期が異なるのでできれば品種ごとに）散布するの

が望ましいのですが、実際のところは数種の薬剤を混用し全園を1回で済ませる方がほとんどだと思います。例年のように暖かい春の場合は一斉に開花して開花期間も短いことが多く、また害虫の発生・活動も早いことから防除対象を訪花害虫に設定し早めに散布すべきです。ところが今年のように寒い春の場合は害虫の発生・活動も遅れることが多いので、防除対象を灰色カビ病に設定し遅めの防除を心がけるべきです。



果実表面のほか、春葉上にも病斑が見える



果皮表面の病斑



春葉上の病斑